

桃園町内、急傾斜地法面(県の危険箇所指定)の 現地防災診断に基づく防災指導について

桃園町内防災会

- 防災診断実施日 ・平成10年5月12日
- 協力者 ・社団法人、地すべり対策技術協会中国支部、支部長、高橋 尚城様(元、岡山県砂防課長)
・岡山市河川港湾課、防災対策室、津高支所、その他

1 災害の種類

- (1) 土石流
- (2) 地すべり
- (3) 急傾斜地崩壊

2 急傾斜地とは

- (1) 斜面角度30度以上
- (2) 高さ5m以上

3 急傾斜地崩壊危険(箇所、区域)指定

- (1) 上記の急傾斜地で、しかも、上や下に民家が5戸以上ある場合
- (2) 人口斜面の場合は、☆「危険箇所指定」ですが、☆ 防災工事の対象外
- (3) 自然斜面の場合は、☆「危険区域指定」で、☆ 防災工事の対象となる

● 桃園の場合は、下記現状で「危険箇所指定」

- ① 3区の法面は、傾斜角約40度、高さ約15m
- ② 4～5区の法面は、傾斜角約45度、高さ約25～30m
- ③ 両者何れも、上下に民家5戸以上で、人工傾斜地の為

4 法面の犬走りについて

普通、斜面の高さ5mごとに設けるが、その目的は、

- ① 斜面に強度を持たせる
- ② 崩壊を部分的に止める
- ③ 長さの方向に勾配をつけ、降水を早く流下させるため

5 斜面崩壊時の土砂流出範囲

- (1) 普通は、高さの半分程度
- (2) 時には、高さの1～2倍のこともある

6 急斜面防災上の注意

- (1) 斜面の一ヶ所に集中的に水が流れるのを防ぐのが一番肝心
- (2) 1時間当り、20mm、総雨量100mm以上となれば、要注意、1時間当り、30～50mm、総雨量200～300mmの集中豪雨ともなれば、嚴重注意
- (3) 簡単な降雨量の測定法
清酒ワンカップの空き瓶の深さは100mmのため、これを庭先において、その水の高さを測れば1時間当り、或いは、総雨量など、手軽に測定できる(カップが一杯になれば要注意)
- (4) 平素から、法面の状況や、関連側溝などの保守点検などを怠らない

7 斜面の樹木について

- (1) 以前は何にも植えない裸が一番よいとされていたが、最近では、防災工事においても、工事などに支障が無く、崩壊などに悪影響を与えない樹木などは環境緑化の観点、また、土砂風化防止の観点から、積極的に残しているのが現状とか
- (2) なお、一般斜面においては、自生している草や、背の低い広葉樹などは良いだろう
- (3) しかし、松・杉・檜などの針葉樹は、台風時に揺さぶりを受け、また、比較的根張りが悪く倒壊しやすく、土砂崩壊の誘引になるので好ましくない
- (4) 更に、竹は、横への根張りは強く、地震などには強いが、深さの方向の根張りは浅く、表層滑りには弱く、好ましくない

8 町内の、「奥田又池～市の所有」も、危険溜池に指定されていますが、毎年1回、専門業者に依頼して定期点検を実施しているとのこと

溜池の場合は、余水吐け(オーバーフロー)を塞がないようにする、これが一番大事とのこと

9 その他、参考事項

- ・ 桃園ハイツ全体が、花崗岩質で、比較的水はけがよく、斜面保持力も強いが、ある限界に達すると脆く崩壊すること
- ・ 急斜面の崩壊は、上部が被さった地形、桃園のような傾斜角40～50度付近が一番危険との事ですが、要は、法面に集中的な水の流れを防ぐ事です

※ 以上が、指導の内容ですが、今後ともこれを参考に、町内防災会でも種々対策を練り、防災に万全を期す予定ですので、皆様の積極的なご支援ご協力を切にお願い申し上げます